

## 第2回県立高校入試改善検討委員会（会議録）

平成22年8月30日（月）13:30~15:30

於：県庁12階特別会議室

### 1 開会（高橋高校教育課長）

### 2 教育委員会あいさつ（法貴教育長）

今日の柱は一般入学者選抜と定時制入試の二つ。忌憚のないご意見を。

### 3 委員長あいさつ（望月盛岡大学学長）

入試制度は「これでよし」はありえないが、岩手県は全国的に見てどうなのか、客観的に分析を加えることができれば。

### 4 説明・協議（議長:望月委員長）

#### I 一般入学者選抜

[岩井主任指導主事]

各都道府県の状況、東北各県の状況

ア 青森 一般選抜枠と特色化選抜枠（選抜順番は学校で決める）

イ 宮城 学力検査点と調査書点で相関図表を作成、領域Aと領域B

ウ 秋田 相関表作成、宮城に近い

エ 山形 学力検査点と調査書点を分布で五段階に分けて選抜

オ 福島 青森に近い

[吉田委員]

アンケート等から現行のままでよいという意見が大半。中学校側から言えるのは日頃の学習の成果を測っていくものであってほしい。

[千葉委員]

推薦が復活し、選考Bの位置づけを含めて改訂していく必要があるのでは。

[及川委員]

推薦復活の経緯が知りたい。

[高橋高校教育課長]

受検生全員に学力検査を課すことが目的で推薦を廃止した。しかし、中学校長会からの要望や高校から特色ある学校づくりに支障をきたしているという意見があり、復活となった。

[川村委員]

独自問題、選択問題について、他県の状況は。

[岩井主任指導主事]

東北では独自問題なし。選択問題は宮城・秋田で英数実施。宮城は廃止の方向。

[嗟峨委員]

定員に満たない学校が増え、選抜の意味をなさない。中学校は学力が二極化。

[佐々木教育次長]

高校の学習指導要領の内容をクリアできる生徒を可能な限り受け入れたい。各学校

が求める生徒が入学できる制度を作りあげたい。二極化でも現行の問題レベルで対応できると考える。

[阿部委員]

競争率が低い中、部分的な制度だけを論議していくことに違和感。

[工藤委員]

少子化で子どもが減少していく中、ニーズの多様化に対し、県の考えは。

[鳩岡委員]

この場はそういう議論の場ではないはず。

[及川委員]

概ね現行どおりでいいのでは。高校学習指導要領に耐えられる学力をもった生徒を選抜する学力検査であってほしい。

[吉田委員]

正答率1%の問題も存在するのでレベルの適正化を。調査書に関しては1年生を加えることに賛成。

[千葉委員]

受験生の学力レベルに合わせて、学力検査のレベルを下げるのは好ましくないのではないか。学校裁量を認めてほしい。特色ある学校づくりにつながるはず。

[菅原委員]

調査書1年生からは賛成。ABC選考は工夫されたい制度だが、独自で動ける部分がない。BC選考を最初に行うという方法もあり。

[坂本委員]

基礎学力を高める効果を持った入試改善を。

[伊藤委員]

制度そのものについては面接も含めて現行どおりで。調査書は1～3年。保護者に分かりやすい制度にしてほしい。

[米澤委員]

面接は重要。調査書に1年生も加えるのは、中学入学と同時に高校入試を意識することになり、かわいそうな気がする。

## II 定時制入試

[高橋高校教育課長]

社会人入試のあり方。社会人となってからの教科の壁は高い。

[菅原委員]

資料説明。現行制度でよいが面接重視で。学校裁量の幅を大きく。

[鳩岡委員]

学力検査はほとんど意味がないが、だからといってレベルを下げるのはモチベーションに関わるので共通問題で。

[東委員]

選抜した後の生徒の実態把握の資料となるので学力検査は必要。

[及川委員]

成人卒は社会人になっても学びたいという人たちのためにも是非必要。

6 その他  
特になし

7 連絡

[高橋高校教育課長]

本日の意見を参考にして、中高の校長にアンケートを取りたいと考えている。次回は12月24日(金)。

8 閉会